

---

# 恋のラスト・オーダー

篠宮 かおる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋のラスト・オーダー

### 【Nコード】

N7644X

### 【作者名】

篠宮 かおる

### 【あらすじ】

出会いは最悪。性格も最悪。

それでもこの人は特別な人。

どんな話になるかは分かりませんが、とりあえず投稿します。

**最悪なファーストコンタクト（前書き）**

この年齢差は犯罪でしょうか？

## 最悪なファーストコンタクト

幸せってなに？

少なくとも、強制的に押し付けられたり、コレって言えるものじゃないと思う。

だって、私達は意志を持った、一人一人の生きた人間なのだから。

私、<sup>アマミ</sup>天海 <sup>チカコ</sup>央子、15歳、孤児。

私の幸せは、食べる事と誰かの為に美味しい料理を作ることだった。

だけど、今はそんな悠長な事なんて言ってられない。

両親から捨てられて10年。

そんな私は今、大きな岐路に立たされている。

それはこれからの人生の進路だ。

希望していた高校には合格しているけど、授業料やその他に掛る経費は払えない。

かといって、今時中卒で働けるところや、雇ってくれるような奇特な企業はない。

もし、高校に入学をするのならば、入学金は今週中に学校指定の銀行口座に入金するか、事務手続きに学校に行くしかないし、高校には行きたい。なのに、現実には私には厳しく辛い。

財布を見れば、自ずと答えは導かれる。

「就職、しかないよね……。」

今私がいるのは、24時間営業の深夜のファミレス。

お客さんは意外と多い。

けど、未成年は多分私だけ。あとはみんな仕事帰りの人達や、それこそ仕事の合間に来ているような人達だけ。

カラントゥ……。

氷がグラスの中で溶け、互いに動き、涼やかな音を奏でたと、その時。

「ふざけないで！！馬鹿にしてるの!？」

静かだった店内が俄に騒がしくなる。

この騒音の発生源は、全くもって迷惑な事に私の座っている席の隣。

ああ、煩いなあ……。  
なんなのさ。

人が悩んでいる時に、と、隣の席に目を向ければ、一組の男女が（と、言っても化粧の濃い女の人が一方的に）言い争っていた。男の人は何かをかけられたのか、高そうなスーツと髪が濡れていた。

「気は済んだか？」

「な、なんですって!？」

あからさまな溜息が男の人から出る。

「私と君の夫婦関係は、既に半年前に破局している。それが今更妊娠とは……。」

聞いて呆れる。

と、侮蔑に塗れた痛烈な皮肉と嘲笑を、男の人が涼しい顔つきで淡々と紡いだ。

見ては、聞いてはならないものを見てしまった。そして聞いてしまった。

これが俗に言う修羅場なのだろう。

それを体験してしまったある種の恐怖心から、そつと、視線をバイト情報誌に移そうとした私は、ボロボロの鞆を、誤ってテーブルから落してしまった。

それと一緒に落ちたのが、薄桃色のA4の封筒と、履歴書。

「……。(気まずい)」

焦げ茶色の髪の毛のツイントールに、クリーム色のカーディガンを羽織っただけの私は、何処をどう見ても未成年で、中学生にしか見えない。

事実、まだ3月なので高校生ではない。

とりあえず落してしまった荷物を拾うべく、席から立った私は、真っ先に封筒を拾い、履歴書の行方を目で追った。

ああ、神様。

私はあなたに何かしたでしょうか。

履歴書は、件の男の人の足元にあった。

しかもその履歴書は、男の人の足の下敷きになっている始末。

酷い、酷過ぎる。

それでも拾わなければならない。  
がんばれ、私。

気合いを入れ直した私は、無神経な現代っ子ぶりを発揮して、頭の悪そうなキャラを演じた。

「ちょっとどいてもらえませんか？履歴書落しちゃってえ〜。あッ！！」

・・・ビリッ・・・。

誰が悪いとか、そんな問題じゃない。

踏みつけられていた履歴書を救出しようとした私を襲ったのは、これまた悲劇だった。

男の人は、私の言っている事が解らなかったのか、足を無暗に動かし、あるうことが破いてしまったのだ。

紙が破れた音で、ようやく私の言葉の意味が通じたらしく、それでも男の人は表情を変えず、私を無視した。

その瞬間こみ上げた感情は、激しい苛立ち。

だいたい、こんな処で喧嘩することが間違ってるんじゃないのか。夫婦喧嘩なら裁判所でやれ。

「聞こえなかった？あたしは退いてって、言ったんだけどなあ〜？」

怒りの感情は人を簡単に支配する。

私は男の人の前にあつた、水の入ったグラスを持ち、それを男の人の頭の上でひっくり返して、破れてくしゃくしゃになった履歴書を拾い、立ち上がった私は、にこつと笑い、毒を吐いた。

「因果応報、って言葉知ってる？ 醜い喧嘩なら外でやってよね。」

そのままレジに行き、清算を済ませ、ファミレスを出た。

それが、桐崎<sup>キリサキ</sup> 夏琉<sup>ナツル</sup>、31歳、との運命の出会いだった。

でも、この時の私は、二度と会うことは無いだろうと思っていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7644x/>

---

恋のラスト・オーダー

2011年10月21日01時07分発行